

各位

会社名 株式会社ガーラ
 代表者名 代表取締役グループCEO キム ヒヨンス
 (コード: 4777、スタンダード市場)
 問合せ先 執行役員 CFO 小笠原 一郎
 (TEL. 03-6822-6669)

2025年12月期連結業績と前期実績との差異及び個別業績と前期実績との差異、並びに連結決算における特別損失及び営業外費用、個別決算における特別損失の発生に関するお知らせ

当社は、2025年12月期(2025年1月1日～2025年12月31日)連結業績と前期実績との差異及び個別業績と前期実績との差異、並びに2025年12月期(2025年1月1日～2025年12月31日)の連結決算において、営業外費用(為替差損)、特別損失(減損損失)の発生及び個別決算における特別損失(関係会社株式評価損及び関係会社事業損失引当金繰入額)の発生に関して下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2025年12月期連結業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A) 2024年12月期	2,350	△447	△358	△907	△33.70
当期実績(B) 2025年12月期	2,589	△221	△252	△532	△18.99
増減額(B-A)	238	226	105	375	—
増減率(%)	10.1%	—	—	—	—

2. 2025年12月期個別業績と前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A) 2024年12月期	54	△482	△423	△1,685	△62.55
当期実績(B) 2025年12月期	123	△202	△219	△495	△17.69
増減額(B-A)	68	279	203	1,189	—
増減率(%)	125.7%	—	—	—	—

3. 差異が生じた理由

(1) 連結業績

2025年12月期の連結業績は、連結売上高2,589百万円となり、増収となりました。これは、主にROAD101 Co., Ltd. のVFX売上が前期と比較して増加したことによります。VFX売上高の主な増加理由は、前期より前受金として溜まっていた受注残が2025年に実現したことによります。

営業利益及び経常利益につきましては、増収に伴い売上総利益が100百万円増加した他、前期に発生した特別委員会設置等に係る費用がなくなり支払手数料及び支払報酬が99百万円減少いたしました。一方で、営業外費用として支払利息38百万円を計上したことや、前期は営業外収益に計上していた為替差益39百万円に対し、当期は為替差損21百万円を計上したこと等により、前期実績と比較して差異が生じました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前期は減損損失401百万円や課徴金引当金繰入額64百万円等を計上した一方、当期も減損損失529百万円等を計上し、特別損失の総額に大きな変動はありませんでした。しかしながら、当期は株式会社ツリーフルの減損損失計上に伴い、非支配株主に帰属する当期純損失が290百万円（損失の控除項目）発生したこと等により、親会社株主に帰属する当期純損失が縮小し、前期実績と比較して差異が生じました。

これらの結果、営業損失221百万円（前期は営業損失447百万円）、経常損失252百万円（前期は経常損失358百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失532百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失907百万円）となりました。

(2) 個別業績

2025年12月期の個別業績は、売上高123百万円となり増収となりました。これは、主に韓国不動産購入に伴う家賃収入による影響により前期と比較して増加いたしました。

また、営業利益及び経常利益につきましては、主に前期に決算訂正関連費用248百万円を計上したことによる販売費及び一般管理費の減少、また、営業外収益として主に前期に貸倒引当金戻入益40百万円の計上、営業外費用として当期に支払利息46百万円を計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

当期純利益につきましては、主に当期に関係会社株式評価損117百万円、関係会社事業損失引当金153百万円を特別損失として計上したこと、前期に関係会社株式評価損871百万円、関係会社事業損失引当金繰入額328百万円、上場契約違約金20百万円を特別損失として計上したことを理由として前期実績と比較して差異が生じました。

これらの結果、営業損失202百万円（前期は営業損失482百万円）、経常損失219百万円（前期は経常損失423百万円）、当期純損失495百万円（前期は当期純損失1,685百万円）となりました。

4. 連結決算における特別損失の計上について（減損損失）

- ① 対象子会社：株式会社ツリーフル
- ② 特別損失計上の理由：連結子会社である株式会社ツリーフルが保有する有形固定資産及び無形固定資産について、稼働率の低下に伴い、投下資本の将来の回収可能性が極めて不確実な状況となりました。このため、固定資産の減損に係る会計基準に基づき回収可能性を慎重に検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額する必要が生じ、減損損失を計上することといたしました。
- ③ 計上額及び対象資産：
 - ・減損損失計上額：438,017千円
 - ・対象資産：建物、建物付属設備、構築物、機械装置、車両及び運搬具、工具器具及び備品、土地、建設仮勘定、特許権、商標権（上記資産の連結上の簿価が回収可能価額を下回ったことによる）

5. 連結決算における営業外費用の計上について(為替差損)

昨今の為替相場の変動の影響により、為替差損 21,865 千円を計上いたしました。

6. 個別決算における特別損失の発生について

(1) 特別損失(関係会社株式評価損) 関係会社株式の実質価額を算定し、帳簿価額と実質価額を比較し、実質価額が著しく下落した関係会社株式について、実質価額まで評価減し、関係会社株式評価損 117,490 千円として計上するものであります。

(2) 特別損失(関係会社事業損失引当金繰入額) 関係会社の事業の損失に備えるため、関係会社に対する出資金及び貸付金等債権を超えて当社が負担することとなる損失見込額の繰入額として関係会社事業損失引当金繰入額 153,137 千円を計上するものであります。

7. 2026年12月期の業績見込みについて

当社グループは、スマートフォンアプリ事業における、アプリの開発やダウンロード配信が予定どおりに進まない可能性や、ダウンロード配信開始後のアプリによる課金収入の予測が極めて困難であり、また、オンラインゲーム事業における、既存タイトルのバージョンアップによる業績予想が非常に難しく、HTML5ゲーム事業における開発が予定どおりに進まない可能性や課金収入の予測も極めて困難であります。これらの損益が大きく変動する可能性が高く、適正な業績予想が極めて困難であることから、業績予測の公表を差し控えさせていただいております。

以上